

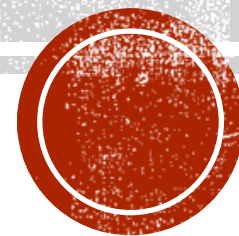
『東アジア現代史』（ちくま新書）

ー東アジアの現状からみる近現代史ー

於「研究・イノベーション学会国際問題分科会」

2025年7月16日 18：00～20：00

敬愛大学客員名誉教授 家近亮子



本日の三つの論点

I 日中戦争の諸相

1. 抗日の原点：「国恥」から「雪恥」へー「対華二十一カ条の要求」と「済南事件」
2. 宣戦布告なき戦争から世界戦争へ：米国「中立法」の影響、「四大国」の一つへ
3. 戦争責任二分論の連続性：蔣介石「以德報怨」の演説の意味するもの

II 朝鮮分断化の諸相

1. 「三・一運動」：日本の植民地支配からの独立運動の分断化
2. 「大韓民国臨時政府」の中国での活動：孫文・蔣介石の保護
3. 「カイロ宣言」、終戦直後の政治情勢

III 東アジア共通の課題：少子高齢化問題



I 日中戦争の諸相 ①－1

1. 抗日運動の原点 : 五九国恥

※中国の4つの国恥記念日：5月9日、9月18日（満州事変）、7月7日（盧溝橋事件）、12月13日（南京事件－2014年から「南京大虐殺犠牲者国家追悼日」）

① 原点となる5月9日：1915年の「対華二十一カ条の要求」受諾の日

② 翌年1916年から「五九国恥記念日」に至る8週間、中国各地で「国恥八週紀念大会」が毎年開催され、「二十一条撤消」「旅大（旅順・大連）回収」「日貨不買、不用日幣」「国貨提唱」などの運動が新聞紙上、ビラ、ポスターなどを利用して大規模に展開された。

※「二十一カ条」は、中国では「廿一苛條」と揶揄された。

⇒ これにより、学生運動が年々増大していった。

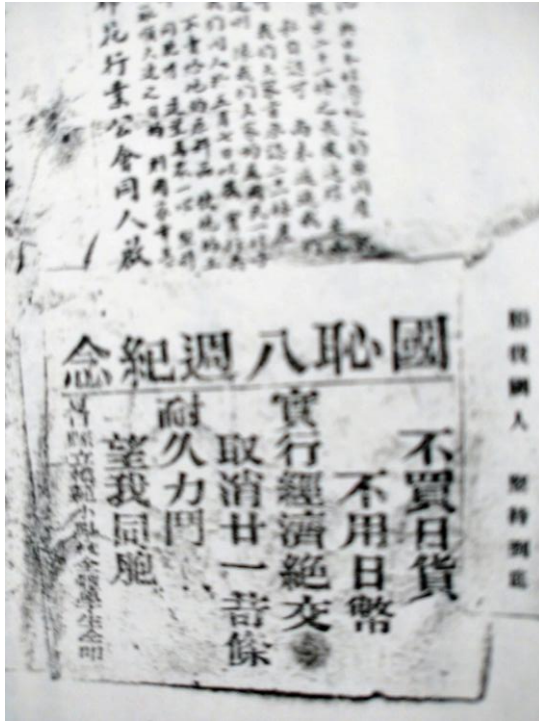
⇒ 1919年の五四運動の全国化、1921年の中国共産党結成につながる。

⇒ 「国恥」排日運動の大衆化、日常化が中国人の「記憶の共同体」形成を促し、満州事変後の全国的な抗日運動の母体となっていく

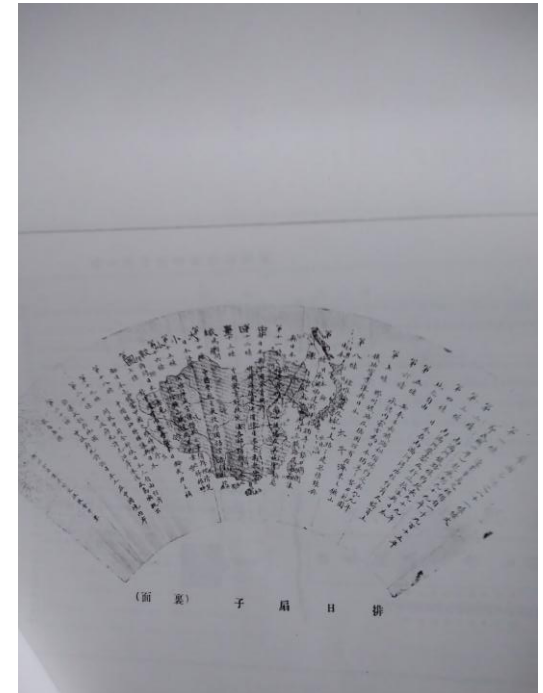
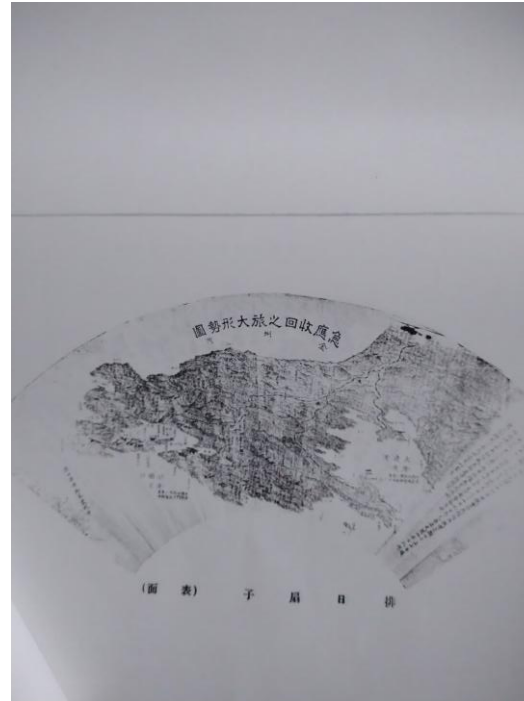


①1923年の「国恥八週紀念」に掲載された新聞の広告
②排日扇子（表：旅大の地図、裏：二十一カ条の条文）

①



②



典拠：漢口日本商業會議所編『廿一條問題に藉口せる武漢地方の排日風潮』（大正12年8月25日）



I 日中戦争の諸相 ①－2

－ 済南事件（1928年5月）－ 蔣介石における「雪恥」の原点

※南京国民政府は、1928年4月7日から全国統一を目指して、北伐を再開させた。済南事件は、北京に入る途中に山東省済南で起きた日本軍との大規模な軍事衝突である。

（1）蔣介石の北伐軍は5月1日に済南に到着したが、その前に到着していた馮玉祥の北伐軍は「国恥八週紀念」の排日運動を展開し、「国恥紀念」と書かれたベルトを兵士全員が身に付けていた。

（2）また、中国の主要な全国紙『中央日報』『民国日報』『大公報』紙上では、3月から「国恥」「侵略」「日貨排斥」などの文字が踊り、「ライオン歯磨き」「仁丹」「味の素」など、日本製品の広告掲載が禁止され、日本人に対する暴行略奪が起きていた。

（3）このような状況下、日本の田中義一首相は日本人保護の名目で出兵を決定し、5月3日日中の軍事衝突が起き、8日日本軍は総攻撃をかけ、11日済南全域を占領した。

⇒蔣介石は、北京占領を最終目的としていたため、済南を迂回することとなった。

⇒蔣介石は、1928年5月9日の国恥記念日から欠かさず「日記」の冒頭に「雪恥」と書くようになる。



蔣介石日記

「日記」について

①蔣は、1912年（25歳）から1972年7月21日（85歳）まで毎日『国民日記』に日記を付けていた。

※1917年以前は消失、1924年は行方不明

②スタンフォード大学フーヴァー研究所に宋美齡の死（2003年）の翌年遺族によってdeposit(委託)され、2006年3月から公開される。

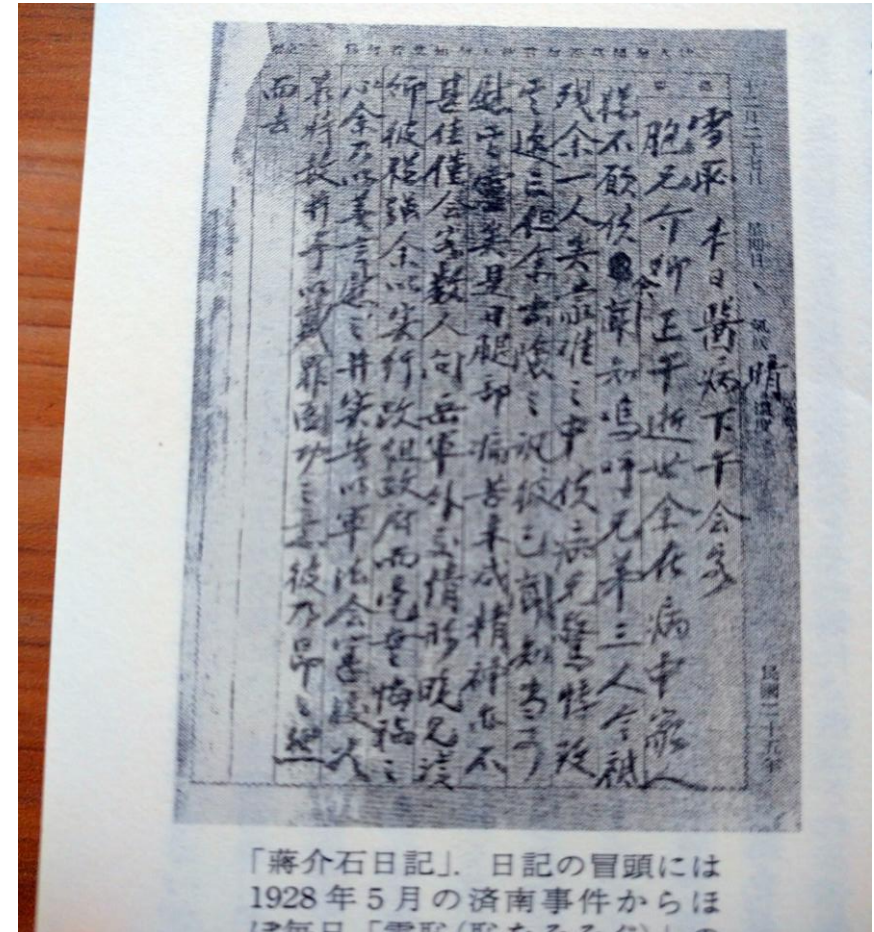
③『日記』閲覧の条件：コピー、カメラなど画像保存用機器の使用禁止。

⇒手書きのみが唯一の手段

④2015年台湾の國史館が返還を求める訴訟を起こし、2022年文化遺産として台湾が管理することが決定し（遺族16人が同意）、返還された。

⇒2022年に1948年から54年の「日記」が出版されている。

「日記」の現物（1926年12月27日）



I 日中戦争の諸相 ②

2. 宣戦布告なき戦争 —アメリカ「中立法」

※アメリカは、1935年8月「中立法（Neutrality Act）」を制定する。

— 目的 —



①ヨーロッパの戦争に巻き込まれることを避けるため

→ **モンロー主義**外交の維持（**国内世論**を反映）

②交戦国双方への**軍需品（兵器類）の輸出と借款供与を禁止**

③兵器生産に係る**物質・原材料の輸出制限・禁止**

④交戦国双方の**金融上の取引禁止**

⑤交戦国船舶によるアメリカ国民の旅行の禁止



アメリカ自体は**中立を維持**。アメリカは絶大な資金力・原材料を逆手に
とって戦争を起そうとする国を牽制



日中戦争への影響

①アメリカ「中立法」は日中戦争に大きな影響を与える。

日本の軍需物資の輸入・金融市場 → アメリカに多くを依存。当時、アメリカは世界有数の産油国

② 中国の国民政府もアメリカからの借款と資金援助に依存



日中双方、1937年7月7日の
盧溝橋事変後も宣戦布告ができない

—宣戦布告なき戦争へ—

→ 国際法が適用されない 歪な戦争

イギリス「Sino-Japanese Incident」

→ 捕虜協定、赤十字の支援などが適用されない

日本における石油・鉄のアメリカ依存度 1940年



中国は、1941年12月9日に日独伊に宣戦布告
中国の国際的地位の向上：1942年四大国の一つになる（蔣介石の外交戦略の最大の成果）

写真は、1942年にアメリカが戦債のため売り出した
連合国26か国旗がデザインされたスカーフ



I 日中戦争の諸相 ③

3. 中国の基本的歴史認識：戦争責任二分論

※中国は日中戦争中、戦後と一貫して戦争責任を一部の軍閥（戦後は、**A級戦犯**）に科し、**日本国民**は中国人民同様、**戦争の被害者**であるという主張

（1） 蔣介石の日本国民「**無辜の民**」論

①蔣介石：「満州事変」は一部の「猪突的軍人」の起こしたものと判断、犬養毅に期待。

②日中戦争勃発後も日本国民と軍部とを意識的にすみ分けて、語る。

⇒「軍部に欺かれ犠牲となっている日本国民」に同情、連帯を呼びかける。

⇒集大成としての1945年8月15日のいわゆる「**以德報怨**」の演説

（2） 毛沢東の「**日本革命**」論

①日中戦争時、延安に訪ねてきた日本共産党員（野坂参三、鹿地亘など）などと交流、日本国内で**反戦運動**が起き、軍部が覆り、内部から戦争が終わることに期待

②1958年からの日本の**日米安保闘争**の広がり期待。「**日本革命**」と位置づけ、中国から支援を送り続ける。

⇒1960年5月9日『人民日報』「首都100万人日本人民反米愛国闘争支持デモ」の記事

⇒中国共産党は戦争責任二分論をとっているため、首相などの**靖国神社参拝に反対**している



蔣介石の日本滞在

- ・ 蔣介石：1887年10月31日浙江省奉化県生まれ（1975年4月15日死去）
- ・ 日本留学歴（通算約5年間になる・・・日本語は、極めて流暢）

※1906年1月から浙江省で日本語を学び、日本留学を志す。

①1906年4月～12月：清華学校（小石川、中国人留学生のための日本語学校）

②1908年4月～1910年11月 振武学校（牛込区河田町、軍事留学生専用）

→この時期に中国同盟会に加入し、革命を志す。

③1910年12月～1911年10月 新潟県高田の陸軍第13師団に入隊。「軍人勅諭」「武士道」・馬術の体得。辛亥革命が起き、帰国

④1912年春～冬 再び留日。ドイツ語を学び、ドイツ留学を目指す。

※1927年9月29日～11月8日 日本周遊の旅（長崎⇒神戸⇒有馬⇒奈良⇒大阪⇒東京⇒箱根⇒日光⇒塩原など



蔣介石「抗戦に勝利し全国軍人、人民、および世界の人々に告げる書」

蔣介石は、1945年8月15日正午に重慶のラジオ局で全国、全世界に向け抗戦勝利の演説をおこなう。原稿は、自ら準備。

→日本との時差、1時間。天皇の玉音放送を強く意識

→「戦争責任二分論」の展開

戦争責任を一部の軍人にのみ科す。

日本国民も中国人民同様被害者であるとの認識と国民に対する説明



「以德報怨の演説」

1. 中国人民に中国に居住している日本人を傷つけてはいけないと呼びかけたことから「以德報怨」、「トクをもってウラミにムクいる」内容の演説と評価された

→ 日本の新聞報道（『大阪毎日新聞』）から出た言葉。

→戦争当時、中国には多数の日本人（260万人）が移り住んでいた。

2. キリスト教の教義から「己の欲するところを人に与えよ」

①「汝の敵を愛せよ」、中国の伝統思想から「旧悪を念（おも）わず」「人に善を為せ」の一節を引き、国民に対して中国民族が伝統的に高い徳性を備えていることを強調し、「我々は報復してはならず、ましてや敵国の無辜（むこ）の人民に汚辱を加えてはならない」と国民に説いた。

→蔣介石は1930年に洗礼を受けた敬虔なクリスチャンであった。

②戦争責任を「日本の横暴非道な武力をもちいる軍閥のみ」に限定。「一貫して、日本国民を敵とせず」という方針を貫く。



蔣介石が実行した「以德報怨」の四大政策

1. 「天皇制の民族自決」

→戦後日本の国体（政治体制）を日本人自らが決定することをカイロ会談で主張

2. 「ソ連の日本分割占領案の阻止」→カイロ会談において

→連合国軍の戦後処理案には、本州と四国をアメリカが、北海道をソ連が、九州を中国が分割統治する案が出ていた。

3. 「200余万軍民（兵士と民間人）の早期祖国送還」

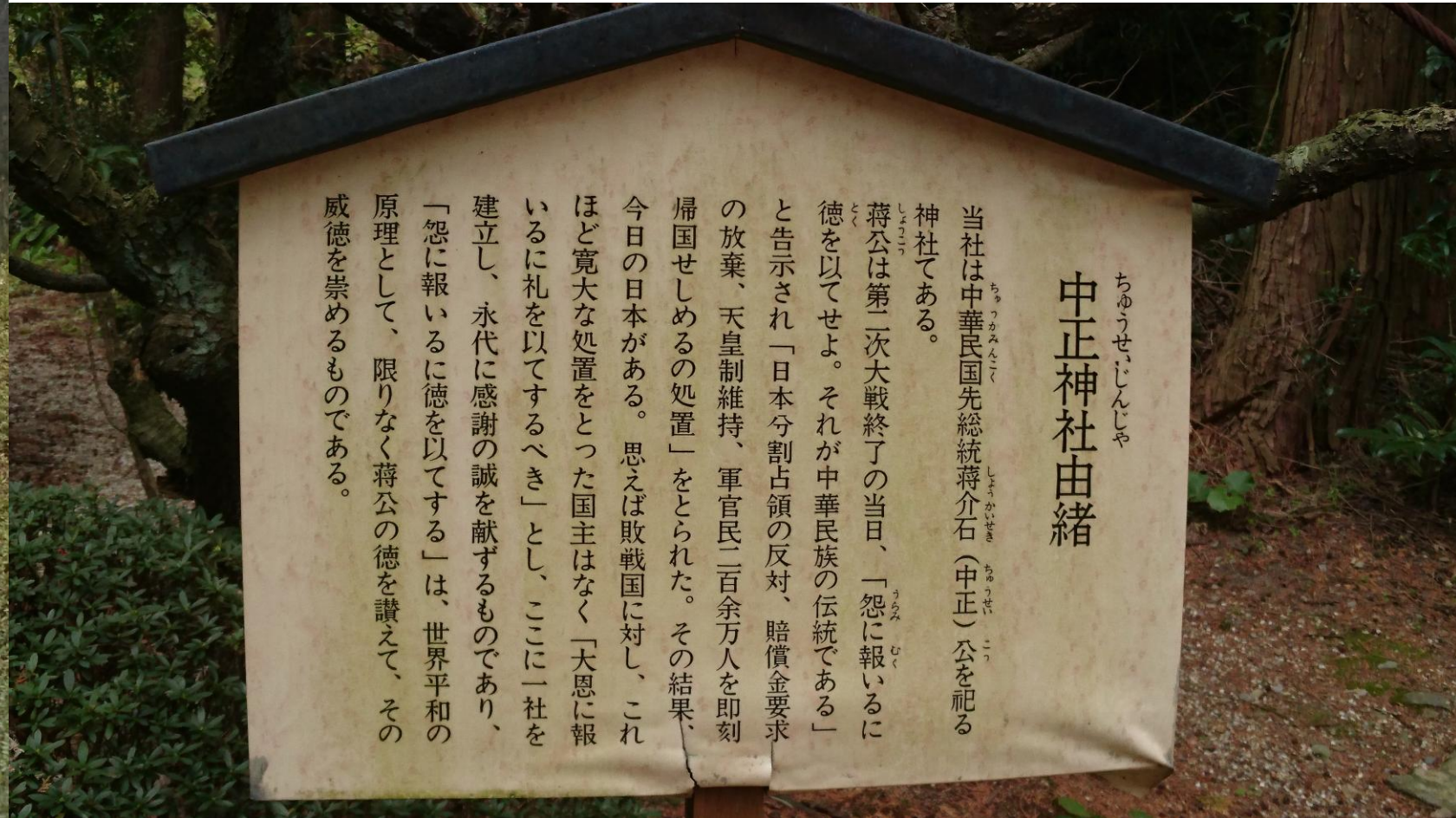
→蔣介石は中国の軍艦を使って、中国に残留していた日本人を日本へと送り返した。

4. 「対日戦争賠償請求の放棄」

→蔣介石は、戦争賠償は国民の税金から支払われるので、結局日本国民を苦しめることになるとして、戦争賠償請求を放棄した。



中正神社（愛知県額田郡幸田町）



Ⅱ 朝鮮分断化の諸相①

1. 「三・一運動」：日本の植民地支配からの独立運動の分断化

(1) 1919年2月8日、パリ講和会議におけるウィルソン米大統領の「民族自決主義」に期待した日本にいた朝鮮人留学生たちが神田の「在日本朝鮮YMCA（現在の在日本韓国YMCA）」で英語と日本語による「独立宣言」を作成し、各国大使館に送る。

(2) 主要メンバーは検挙されたが、残りが朝鮮で活動し、3月1日に大規模な「独立万歳運動」を起こす。

(3) 運動は、軍と警察により鎮圧されたが、主要な活動家は中国に逃れる。

① 李承晩（イスンマン）・金九（キムグ）など

⇒上海に逃れ、フランス租界に「大韓民国臨時政府」を設立

⇒李承晩が臨時大統領に選出されるが、金九と対立し、ハワイに亡命

② 金日成（キムイルソン）は中国の東北に逃れ、中国共産党に入党、日中戦争が開始するとソ連の保護下に入る

⇒抗日独立運動の分断化 ⇒ 戦後国家の分断化につながる



Ⅱ 朝鮮分断化の諸相 ②

2. 「大韓民国臨時政府」の中国での活動：孫文・蔣介石の保護

①孫文は、李承晩らを積極的に保護、自らの盟友である杜月笙に頼んで、フランス租界内に「大韓民国臨時政府」を設立させ、日本からの独立運動を支援

⇒現在、その旧跡は記念館として公開されている（上海市馬当路306－4）

②孫文の死（2025年3月12日）後は、蔣介石がこれを引き継ぎ、

IPR(太平洋問題調査会、中国名「太平洋国際学会」)を舞台に独立運動を支援

③1933年初め、蔣介石と金九が南京で会談：

洛陽の軍官学校内で「大韓民国臨時政府」の
独自の軍隊、武官の養成が開始されることが決定

④日中戦争勃発後、南京国民政府が重慶に移転すると、「大韓民国臨時政府」も重慶に移り、
1940年には「国軍」としての「光復軍」を創設

⑤1941年12月9日中華民国が対日独伊宣戦布告を

おこなうと、「大韓民国臨時政府」も対日独伊宣戦布告をおこなう



Ⅱ 朝鮮分断化の諸相 ③

3. 「カイロ宣言」、終戦直後の政治情勢

① 蔣介石は、カイロ会談において、朝鮮の独立を強く主張

⇒「**カイロ宣言**」には「朝鮮人民の奴隷状態に留意し、**やがて**（「**in due course**」,**「相当時期内」**）**自由且つ独立**のものとする」という文言を入れることに成功

⇒ルーズヴェルト大統領は当初から「**信託統治**」を主張していたため、「やがて」は妥協点となった

② 終戦後の1945年10月16日、李承晩はアメリカ軍と共に凱旋帰国。金九たちの帰国は、アメリカから臨時政府としての帰国が許されなかったため、個人としての帰国となった。

⇒1945年11月4日、蔣介石は重慶で金九、金荃植ら「**韓国革命党員**」30余人を招待して**壮行茶話会**を盛大に開催し、送り出す。**蔣介石の望みは、南北統一の状態での独立**であった。

⇒金九は単独選挙を主張する李承晩と対立し、失脚。自宅に隠遁していたが、1949年6月26日に李承晩支持の将校に暗殺される。

③ **金日成**は、1945年9月22日ソ連からウラジオストク経由で平壤に凱旋帰国



①大韓民国臨時政府壮行茶話会

②李承晩と金九

①



図9-4 大韓民国臨時政府壮行茶話会／左から金奎植、金九、蔣介石、宋美齡

②

イスラマン
李承晩は信託統治に反対しつつも米軍政府との状態が続いた」が、ソ連指導下にあった北では「口宣言」では蔣介石が朝鮮の独立を強く主張し、に留意し、やがて朝鮮が自由且つ独立するものだったが、「やがて (in due course)」という言葉、その後の国際情勢で変化したといえる。した



図9-5 李承晩大統領（左）と金九 [中央フォト]

する会編『以德報怨—写真集「蔣介石先生の遺徳を偲



Ⅲ 東アジア共通の課題：少子高齢化問題

※ 中国の人口問題：人口大国から少子超高齢国へ

1. 中華人民共和国成立後の中国の人口急増の理由

①**社会の安定**：大規模な戦闘の終息、医療の発展、食糧の増産

☞中国は、近代以降諸外国との戦争（アヘン戦争、清仏戦争、日清戦争、抗日戦争）と内戦が続いたため、**人口増加率（出生率－死亡率）が極めて低かった**

②**毛沢東の「人口大国化論」**の実施

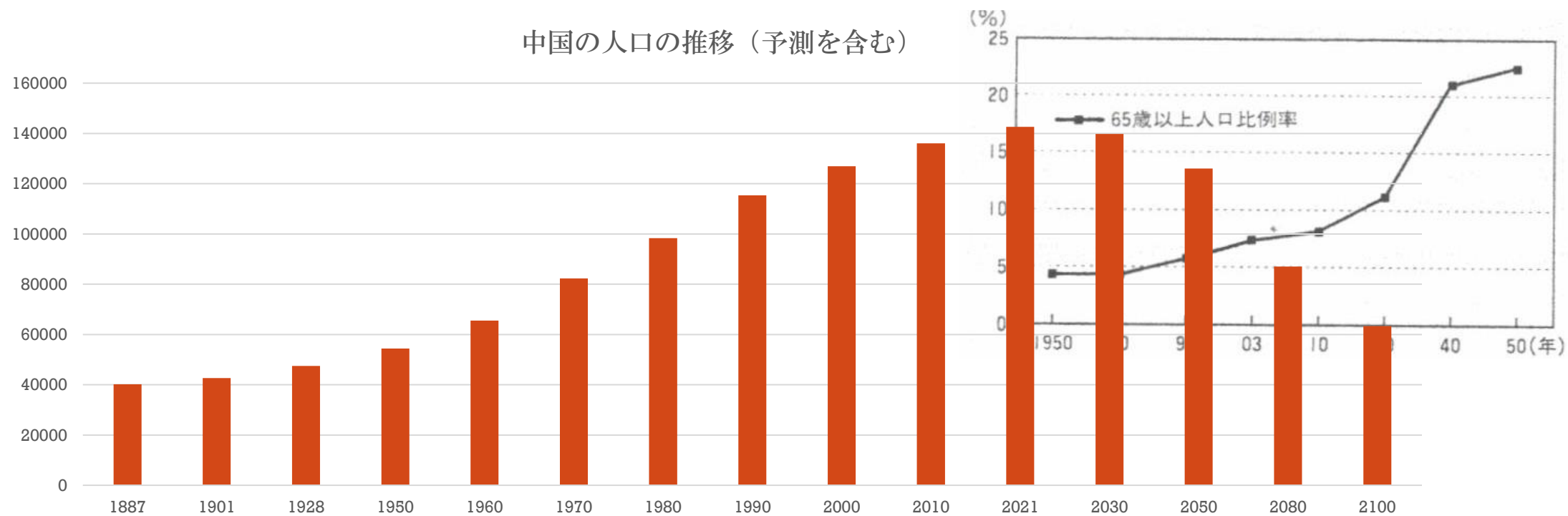
☞毛沢東は、マルクス人口論を展開し、「**人口資本論**」を主張

③農村に伝統的に残っていた**家父長制**（男子は貴重な働き手）と「**多子多福**」の考え

☞土地革命後は、家族が多いほど土地の配分が多いため、「**多子多得**」となり、人口が急増した。



中国の人口推移：1950年からのデータは、[中国の人口推移（国連）](#) | 1950年から2100年まで | セカイハブ



中国の人口政策：「一人っ子政策（独生子女）」

毛沢東の死（1976年9月9日）によって、文化大革命が終息すると、1978年12月から鄧小平が「改革・開放政策」を実施し、それと同時期にいわゆる「一人っ子政策」が開始された（2015年12月までの37年間）。

☞ 「マルクス人口論」及び「毛沢東人口論」から「マルサス人口論」へ大転換

1. 国家が人民の出産を管理：憲法に明記され、国策となる。

☞ 違反した場合、罰則が科せられる ⇒ 強制的な中絶など、人権侵害として国際的な批判を受ける。

2. 基本政策：一組の夫婦に子ども一人まで

⇒ 例外：①夫婦がお互い一人っ子の場合、②少数民族

☞ 農村においては、男の子が働き手として必要なため、戸籍に入れない「黒孩子（ヘイハイズ）」が増え社会問題となった。

※2011年現在で戸籍を持たない人口は、1370万人いた。

☞ 1984年から農村においては、上が女の子に限って、第二子まで産めることになった。



「一人っ子政策」のひずみ

1. 「一人っ子政策」が厳密に適用されたのは、**都市に住む漢民族にのみ**

☞ 少数民族の人口比率が増える：開始時 漢民族**96%** ⇒ 現在**90%**

2. 「小皇帝」「四一二症候群」の出現：都市に住む「一人っ子」は、両親、両方の祖父母に溺愛され、「小皇帝」となる。

☞ 自立できない子ども、子離れできない親：**過干渉、共依存関係**が強い。

3. どうせ産むなら男の子の風潮が強く、**男女比の人口アンバランス**を生み出した

☞ **2022年現在男性の方が4000万人近く多い。**

☞ **結婚できない独身男性（光棍児guangguner）**が急増し、社会問題化している。

※結婚条件（定職、持ち家、車・・・）の弊害

☞ **婚姻率の低下、それに伴う少子化現象の深刻化**



韓国の人口問題

→2018年韓国は世界の中で最も合計特殊出生率の低い国となる

1. 2019年2月韓国統計庁の発表：2018年の出生率は、0.98で1.0を割り込んだ。この傾向はますますひどくなり、2022年の出生率は0.78と過去最低となった。

☞戦後の韓国の出生率は6.0あり、極めて高かった。

☞1961年から国策として人口抑制政策を実施（1994年までの33年

2. 少子化の原因

①晩婚・晩産の傾向：平均出産年齢（第一子）→32.8歳

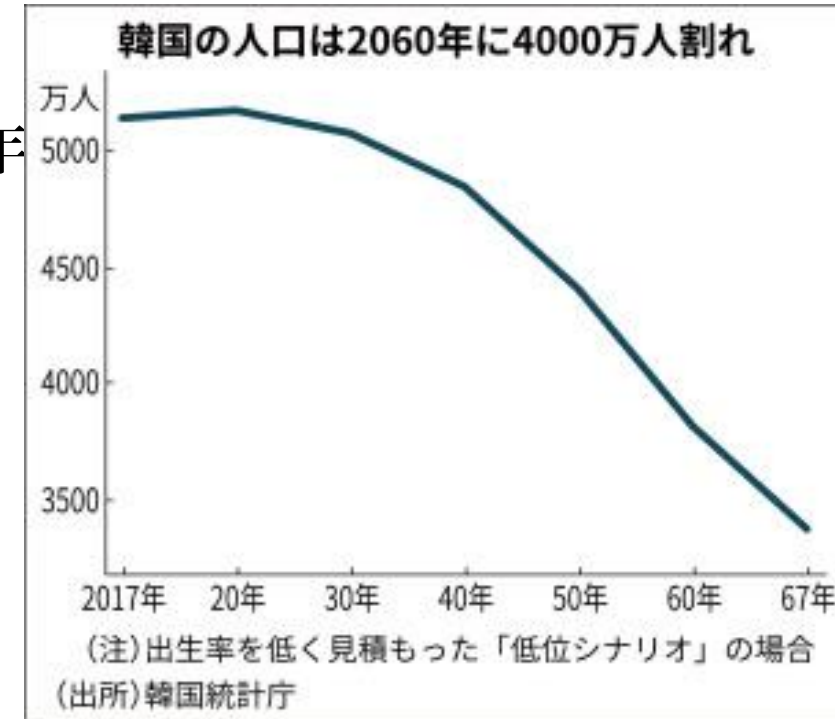
※日本：31歳（2021年）

②成人男子の兵役（約2年間）：就職が遅くなる

③女性の社会進出：未婚率の急増 ☞2015年37.5%

④伝統的儒教型社会：親の介護は家庭で（嫁の役割）の価値観

⑤将来への不安：「朝鮮戦争」休戦状態の継続



<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO43047760Y9A320C1FF2000/>



「二人も多い」のポスター (1980年大韓家族計画協会)

[HTTPS://TERMS.NAVER.COM/ENTRY.NAVER?DOCID=3331410&CID=62011&CATEGORYID=62019](https://terms.naver.com/entry.naver?docid=3331410&cid=62011&categoryid=62019)



台湾の人口問題

1. 戦後の人口急増

1945年の人口：600万人

→1963年1200万人（18年間で2倍→大陸からの移住）

2. 人口抑制政策の実施

戦後の出生率：4.0以上

☞「産児制限」に代わる「妊娠前衛生」計画の実施

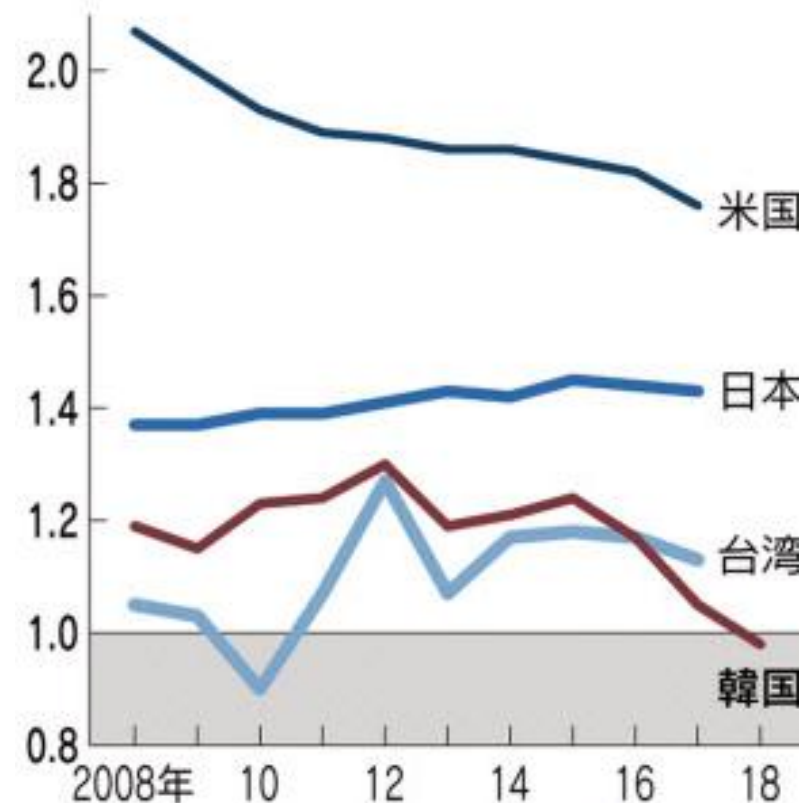
☞1985年には2.0になり、2010年には1を割り込み、マイナス成長となった。

<http://yoshimurayasunori.jp/blogs/>

3. 原因

①徴兵制 ②賃金が安く、結婚できない ③教育費がかさむ ④将来への不安（中国との関係）

主要国・地域の合計特殊出生率



(注)韓国統計庁と日本の内閣府などの資料を基に作成



戦後日本の人口動向

1. 日本

戦後の日本は政府の「産めよ、増やせよ」政策にのり、第1次出産ブームを迎えた。

☞いわゆる**団塊の世代**の出現。

⇒合計特殊出生率（3.5）が上がり、「**人口ボーナス**（demographic bonus）」効果が生まれる。

☞人口ボーナスとは、生産年齢人口（15～64歳）の増加率が人口増加率よりも高くなる状態を指す。戦後の日本は、人口ボーナスの恩恵により高度成長を実現

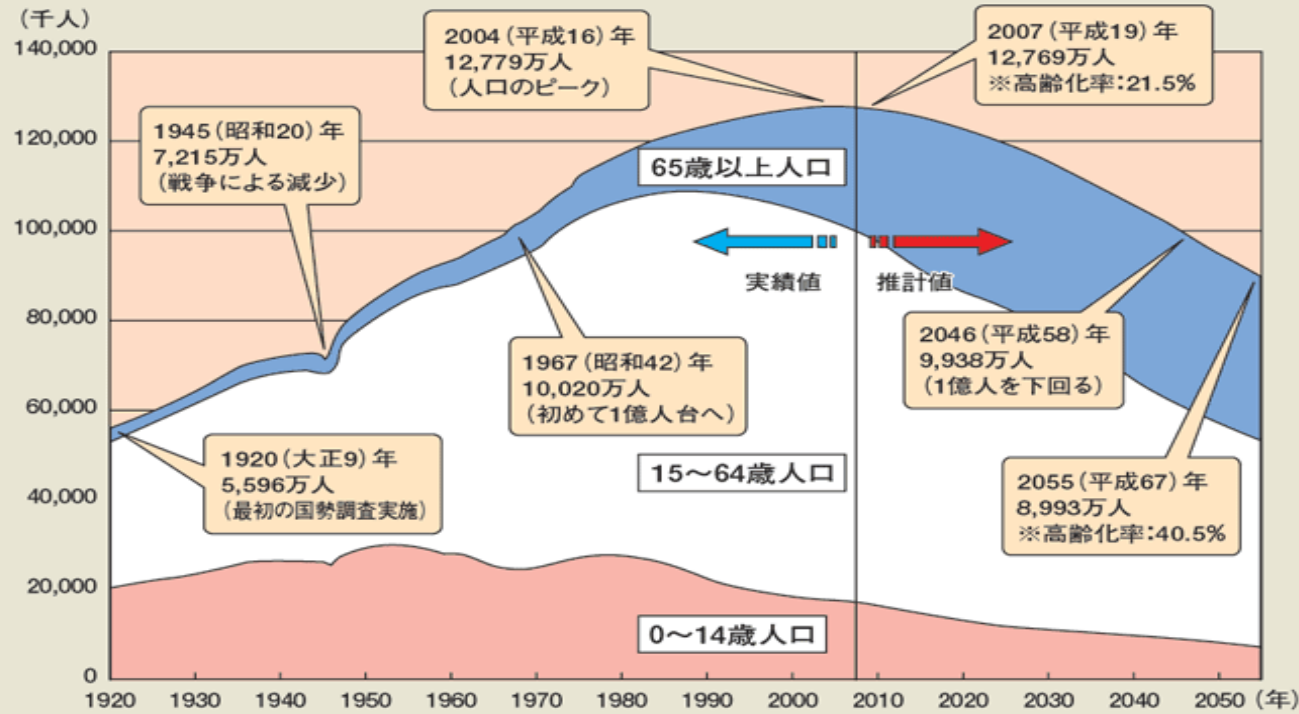
☞日本の低出生傾向は戦後の出産ブームが終わった1956年頃から自然、自主的に始まり、74年以降2.07を下回り、**2005年には史上最低の1.26**となった。

☞現在は「**人口オーナス**（demographic onus）」状態：1990年に人口オーナス(重荷・負担)、すなわち生産人口が急減し、同時に高齢人口が急増する状態に陥った。

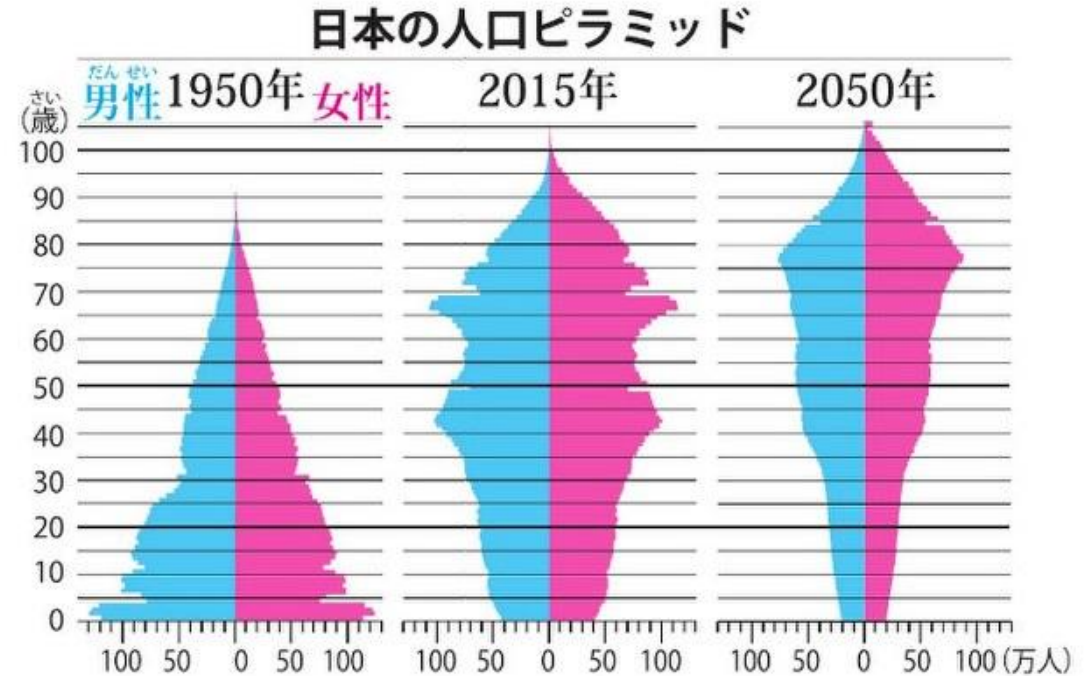


の推移

日本の人口ピラミッド



資料：実績値（1920～2006年）は総務省「国勢調査」、「人口推計（各年10月1日現在推計人口）」、推計値（2007～2055年）は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」の中位推計による。
注：1941～1943年は、1940年と1944年の年齢3区分別人口を中間補間した。1946～1971年は沖縄県を含まない。



「少子超高齢」先進国日本の未来は、暗いか？

明るさに向かう逆転の発想の必要

①「高齢者」の見直し

※ 現在の人口に関する規定では、日本は「超高齢社会」が進み、生産人口は減少する一方

・日本が「高齢者」を65歳以上と規定したのは、昭和57年（1982年：「法律80号」）の41年前
⇒その時期、昭和55年の平均寿命は、男・73.57, 女・79.00 ※2022年：男・81.05, 女・87.09

⇒男は7.48歳、女は8.09歳延びている。高齢者は、少なくとも70歳もしくは、75歳とすべき

②「生産人口年齢」の見直し

・OECD（経済協力開発機構）の規定で国際的に15～64歳になっている ⇒実態を伴わない

⇒日本の高校進学率は95%を超えている。高校を義務教育にすることで、人口動態が大きく変わる

⇒生産人口を19歳～75歳と規定することで、社会構造が大きく変わる。定年制の見直し

⇒「少子超高齢」先進国の日本が率先してやるべきことではないか？



高齢者及び生産人口の見直しによる人口動態の変化

データ：総務省統計局「人口推計：2022年10月1日現在」

日本人人口推計：総数1億2203万人・75万人減少

高齢者・生産年齢の見直し表（家近作成）

年齢別	人口数	割合	前年比	備考
15歳未満	1450万 3000人	11.6%	28万2千人、0.2% 低下	過去最低
15～64	7420万 8000人	59.4%	29万6千人減少	前年と同率
65歳以上	3623万 6000人	29%	2万2千人増加	過去最高 超高齢社会
内・75歳以上	1936万 4000人	15.5%	69万1千人増加	過去最高

年齢別	人口数	割合	人口規定	備考
19歳未満	1992万 1000人	16.3%	子ども・就学児	
19～74歳	8305万 8000人	68.1%	新生産人口	高度成長期に匹敵
75歳以上	1936万 4000人	15.5%	新高齢者	高齢社会へ
※40歳この人大きく	から60歳口構成に変化	団塊ジュなれば、⇒	ニアで人日本の人 明るい未その間出 げる対策	口が多い。口構成は 来へ生率を上



主要な参考文献

1. 家近亮子『東アジア現代史』ちくま新書、2025年
2. 家近亮子・唐亮・松田康博『新版 5分野から読み解く現代中国—歴史・政治・経済・社会・外交—』晃洋書房、2016年
3. 広井良典『人口減少社会のデザイン』東洋経済、2021年
4. 笥 裕介『人口減少 × デザイン』英治出版、2015年
5. 笥 裕介『地域を変えるデザイナー—コミュニティが元気になる30のアイデア』英治出版、2023年
6. 高崎順子『フランスはどう少子化を克服したか』新潮新書、2016年
6. 「高齢者就業支援策の先進事例—フィンランドの取り組みから日本は何を学べるか—」『みずほ総研論集』2006年Ⅱ号
7. 総務省統計局ホームページ
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h28/html/nc111110.html>



ご清聴ありがとうございました
2025年8月に『**蔣介石**』（ちくま新書）が出版されます。

YOUTUBE「**家近亮子の歴史百景**」も
よろしく願いします。



Thank you

